



2024（令和6）年
5月20日・21日

宗祖降誕会

しゅう

そ

ごう

たん

元

親鸞聖人のご誕生のお祝い



経文を掲載しております。
大切にお取り扱いください。



宗祖降誕会

2024(令和6)年

浄土真宗を開かれた親鸞聖人は

一一七三年五月二十一日(承安三年四月一日)、
京都の日野の里でお生まれになりました。

日野の里では、江戸時代からご誕生をお祝いする
行事が行われていたと伝えられています。

一八七四(明治七)年五月二十一日、本願寺
第二十一代宗主明如上人によって本願寺において
宗祖降誕会が、営まれるようになりました。

現在では、五月二十日・二十一日の二日間、
ご法要を勤め、併せて

祝賀能・茶席などの行事を催しております。

目次

03	ご挨拶 〈浄土真宗本願寺派総長 荻野 昭裕〉 〈本願寺執行長 安永 雄玄〉
05	新しい「領解文」(浄土真宗のみ教え)
06	浄土真宗の教章(私の歩む道)
07	新しい「領解文」(浄土真宗のみ教え)についての消息
09	親鸞聖人御誕生八百五十年 慶讃法要御満座の消息
11	立教開宗八百周年
12	法要・行事日程(19日・20日)
13	日野誕生院について
15	無量寿会作法
16	法要・行事日程(21日)
38	新制御本典作法第一種
39	宗祖降誕奉讃法要
40	本願寺の法要行事日程
41	宗祖降誕会リレー布教
42	茶席
43	祝賀能
44	「院号」をいただくには
45	免物
46	帰敬式
47	ほとけさまのお話・お西さんを知ろう!
48	大谷本廟(京阪バス時刻表)
49	日野誕生院/角坊
50	恩徳讃/記念スタンプ
	「令和6年能登半島地震災害義援金」募集について



宗祖降誕会

鈴木行三 作詞
野村成仁 作曲



宗祖降誕会

一、闇に迷う われひとの
生くる道は ひらけたり
無漏のともし はるけくも
かかげんとて 生れましぬ
たたえまつれ きょうの日を
祝いまつれ きょうの日を

二、渴れはてにし 天地は
いつくしみに うるおえり
甘露の雨 とこしえに
そそがんとて 生れましぬ
たたえまつれ きょうの日を
祝いまつれ きょうの日を

しゅうそ ぎょうたん え

宗祖降誕会にあたって

浄土真宗本願寺派総長

おぎの 荻野 昭裕

本願寺執行長

やすなが 安永 雄玄

本日は、遠近各地より、宗祖降誕会にご参拝いただきありがとうございます。

本願寺では、宗祖である親鸞聖人が一一七三（承安三）年にご誕生になられたことを祝いして、毎年五月二十日・二十一日に宗祖降誕会をお勤めいたします。

とくに本年は、親鸞聖人が浄土真宗を開かれて八百年の記念すべき年にあたります。すべての生きとし生ける者を救おうとする阿弥陀如来の慈悲のおはたらきを、親鸞聖人はみ教えとして説き示してくださいました。浄土真宗のみ教えに出遇うことがなければ、今の私はあり得なかったという親鸞聖人への感謝と、

み教えに出遇えた喜びを込めて、親鸞聖人のご誕生をお祝い、ご法要に参拝いただければと存じます。

今日では、新年早々の「令和六年能登半島地震」をはじめとして国内外において頻発する自然災害、さらには紛争や衝突が絶えない国際社会の問題等、私たちの苦悩は増える一方であり、いのちそのものの存在が脅かされ続けています。

「世のなか安穩なれ 仏法ひろまれ」と願われた親鸞聖人のお心を受け止め、お念仏とともに人生を歩ませていただきますよう。

本願寺では法要に併せて、祝賀能や茶席の開催等さまざまな行事が催されます。さわやかな新緑の季節、どうぞお時間の許す限り、心やすらぐひとときをお過ごしください。

合掌

新しい「領解文」 (浄土真宗のみ教え)

南無阿弥陀仏
「われにまかせよ そのまま救う」の 弥陀のよび声
私の煩惱と仏のさとりは 本来一つゆえ
「そのまま救う」が 弥陀のよび声
ありがとう といったいて
この愚身をまかす このままで
救い取られる 自然の浄土
仏恩報謝の お念仏

これもひとえに
宗祖親鸞聖人と
法灯を伝承された 歴代宗主の
尊いお導きによるものです

み教えを依りどころに生きる者 となり
少しずつ 執われの心を 離れます
生かされていることに 感謝して
むさぼり いかりに 流されず
穏やかな顔と 優しい言葉
喜びも 悲しみも 分かち合い
日々に 精一杯 つとめます



浄土真宗の教章(私の歩む道)

宗名 浄土真宗
宗祖 親鸞聖人
(開山)

ご誕生 一七三三年五月二十一日
(承安三年四月一日)

ご往生 一二六二年一月十六日
(弘長二年十一月二十八日)

宗派 浄土真宗本願寺派
本山 龍谷山 本願寺(西本願寺)
本尊 阿弥陀如来(南無阿弥陀仏)
聖典 釈迦如来が説かれた「浄土三部経」

『仏説無量寿経』

『仏説阿彌陀経』

・宗祖 親鸞聖人が著述された主な聖教

『正信念仏偈』『教行信証』行巻末の偈文

『浄土和讃』『高僧和讃』『正像末和讃』

・中興の祖 蓮如上人のお手紙

『御文章』

教義

阿弥陀如来の本願力によって信心を
めぐまれ、念仏を申す人生を歩み、この
世の縁が尽きるとき浄土に生まれて
仏となり、迷いの世に還って人々を教化
する。

生活

親鸞聖人の教えにみちびかれて、阿弥陀
如来の心を聞き、念仏を称えつつ、
つねにわが身をふりかえり、慚愧と
歡喜のうちに、現世祈禱などにたよる
ことなく、御恩報謝の生活を送る。

宗門

この宗門は、親鸞聖人の教えを仰ぎ、
念仏を申す人々の集う同朋教団で
あり、人々に阿弥陀如来の智慧と慈悲を
伝える教団である。それによって、自他
ともに心豊かに生きることのできる
社会の実現に貢献する。



新しい「領解文」(浄土真宗のみ教え)についての消息

本年三月には、「親鸞聖人御誕生八百五十年・立教開宗八百年慶讃法要」という記念すべきご縁をお迎えいたします。このたびの慶讃法要は、親鸞聖人の立教開宗のご恩に深く感謝し、同じお念仏の道を歩む者同士が、あらためて同信の喜びを分かち合うためのご法要です。また、これを機縁として、特に若い人やこれまで仏教や浄土真宗に親しみのなかった人など、一人でも多くの方々に浄土真宗とのご縁を結んでいただきたいと思います。

伝道教団を標榜する私たちにとって、真実信心を正しく、わかりやすく伝えることが大切であることは申すまでもありませんが、そのためには時代状況や人々の意識に応じた伝道方法を工夫し、伝わるものにしていかなければなりません。このような願いをこめ、令和三年・二〇二一年の立教開宗記念法要において、親鸞聖人の生き方に学び、次の世代の方々にご法義がわかりやすく伝わ

るよう、その肝要を「浄土真宗のみ教え」として示し、ともに唱和していただきたい旨を申し述べました。

浄土真宗では蓮如上人の時代から、自身のご法義の受けとめを表出するために『領解文』が用いられてきました。そこには「信心正因・称名報恩」などご法義の肝要が、当時の一般の人々にも理解できるよう簡潔に、また平易な言葉で記されており、領解出言の果たす役割は、今日でも決して小さくありません。

しかしながら、時代の推移とともに、『領解文』の理解における平易さという面が、徐々に希薄になってきたことも否めません。したがって、これから先、この『領解文』の精神を受け継ぎつつ、念仏者として領解すべきことを正しく、わかりやすい言葉で表現し、またこれを拝読、唱和することとご法義の肝要が正確に伝わるような、いわゆる現代版の「領解文」といふべきものが必要になってきます。そこでこのたび、「浄土真宗のみ教え」に師徳への感謝の念を加え、ここに新しい「領解文」(浄土真宗のみ教え)として示します。

南無阿弥陀仏

「われにまかせよ そのまま救う」の 弥陀のよび声
私の煩惱と仏のさとりは 本来一つゆえ
「そのまま救う」が 弥陀のよび声

ありがとう といたいて

この愚身をまかす このままで
救い取られる 自然の浄土

仏恩報謝の お念仏

これもひとえに

宗祖親鸞聖人と

法灯を伝承された 歴代宗主の

尊いお導きに よるものです

み教えを依りどころに生きる者 となり

少しずつ 執われの心を 離れます

生かされていることに 感謝して

むさぼり いかりに 流されず

穏やかな顔と 優しい言葉

喜びも 悲しみも 分かち合い

日々に 精一杯 つとめます

この新しい「領解文」(浄土真宗のみ教え)を
僧俗を問わず多くの方々に、さまざまな機会
で 拝読、唱和いただき、み教えの肝要が広く、ま
た次の世代に確実に伝わることを切に願ってお
ります。

令和五年 一月十六日

龍谷門主 釋 專 如

親鸞聖人御誕生八百五十年 立教開宗八百年 慶讃法要御満座の消息

本年三月二十九日より五期三十日間にわたってお勤めしてまいりました親鸞聖人御誕生八百五十年 慶讃法要は、本日をもってご満座をお迎えいたしました。立教開宗八百年 慶讃法要は、本日をもってご満座をお迎えいたしました。このたびの五十年に一度のご勝縁に国内外より多くの方々にご参拝いただき、厳肅かつ盛大にご法要をお勤めすることができましたのは、仏祖のお導きはもとより、僧侶・寺族・門信徒など有縁の方々のご懇念のたまものと心より感謝申し上げます。

私たちが浄土真宗のみ教えを確かな依りどころとして生きることができるのは、親鸞聖人が『顕浄土真実教行証文類』（教行信証）を著され、『仏説無量寿経』に説き示される阿弥陀如来の本願名号の真実の教えを明らかにされるとともに、聖人のみ跡を慕う多くの先人方が、み教えに生かされる喜びを今日まで大切に伝えてこられたからに他なりません。

私たちは阿弥陀如来の智慧の光明に包まれ、照らし出されることによって、今まで気づかなかった罪業深重・煩惱具足という自身の姿とともに、如来の広大な恩徳を知らされます。そして、このような私たちが、如来に慈しまれていると同時に私の悲しみを如

来の悲しみとして受け入れていただけることを信知することで、自身の悪業煩惱を心から慚愧し、少しでも執われの心を離れなければならぬと気づかされます。

それは自分だけの安穩を願うような自己中心的な生き方から、人々の苦悩をともし、ていく生き方への転換であり、そこから大智大悲という如来のお徳を真実と仰ぎ、それに沿うよう努める念仏者の生き方が開かれてきます。そして、その努め励んでいくままが如来のお徳に促され、ご本願に生かされて生きる姿になるのです。

このたびの慶讃法要を機縁として、あらためて「世のなか安穩なれ、仏法ひろまれ」と願われた親鸞聖人のお言葉を深く心に刻み、これからお念仏を喜び、阿弥陀如来の智慧と慈悲をあらゆる人々に伝えることで、自他ともに心豊かに生きることのできる社会の実現に向け、さらなる歩みを続けてまいりましょう。

令和五年 五月二十一日
二〇二三年

龍谷門主 釋 專 如

法要・行事日程

20(月)日 19(日)日

14時00分 引き続き	誕生会 五会念仏作法 布教（約40分） 朝山 大俊師（大阪府）	日野誕生院
6時00分 晨朝後	晨朝 帰敬式（午前の部） リレー布教 P.40	両影堂 御影堂 お茶所
9時30分～10時00分	本願寺参与物故者追悼法要 園児のつどい お西さんの法話（約15分） 安武 慶哉師（福岡県）	阿弥陀堂 御影堂 お茶所
10時00分	茶席 ※茶席券が必要です P.41 帰敬式（午後の部） 常例布教（30分1席） 大竹 輝道師（三重県）	飛雲閣（1層） 御影堂 総会所
12時30分～16時00分	速夜法要 無量寿会作法（約75分） ▶LIVE P.13 御堂布教（約10分） 大竹 輝道師（三重県）	御影堂 お茶所
15時30分～16時00分	引き続き リレー布教 P.40	お茶所

園児のつどい

浄土真宗本願寺派保育連盟加盟
園の保育園・幼稚園・認定こども
園に通う園児が参拝されます。
つどいは一部と二部とに分か
れ、はじめに「式典」として「幼
児のおつとめ」が勤められます。
式典に続く後半のアトラクション
では、子どもたちと一緒に楽しい
ひとときを過ごします。

と き ● 5月20日(月)
式典：10時30分
アトラクション：11時10分

ところ ● 御影堂



担当部 社会部〈宗教教育担当〉

※以下ページ担当部は 表記

親鸞聖人御誕生の地 日野の里
日野誕生院について

本願寺第二十代宗主広如上人によって、一八二八（文
政十一）年に建立され、近年では二〇二三（令和五）
年の親鸞聖人御誕生八百五十年・立教開宗八百年慶讃
法要にあわせて整備工事を行いました。

別堂の瓦は新しくなり、内陣の仏具や床の傷み、汚
れ等が修復され、建立された当時のことが思い起さ
れる佇まいとなり、またご参拝しやすいようにと境内
の石畳も新設されました。

御堂は平安時代の様式をとっており、真宗寺院の基
本形態とは大きく異なっています。親鸞聖人のご誕生
を記念する本院へ、どうぞご参拝ください。



幼童の御影



別堂

親鸞聖人の
幼き日を偲ばせて
いただく場所



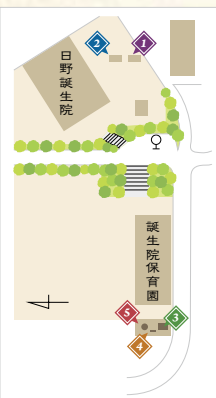
1 童形像
聖人幼少の頃のお姿を
模したといわれる立像



3 産湯の井戸
聖人の産湯として使われ
たといわれる井戸



2 歌碑
聖人が得度にあたって
詠まれたという
「明日ありと
思ふ心のあだ桜
夜半に風の
ふかぬものは」
の歌碑



5 胞衣塚
聖人のへその緒を
埋められたと
いわれる塚

4 句碑
日野誕生院の堂宇を
建立するにあたって
ご尽力頂いた
田上菊舎さんの句碑



無量寿会作法

●二十日 速夜法要

法要の次第

- 一、行事鐘
- 二、証誠・題者・結衆入堂着座
- 三、講読師登高座
- 四、結衆座前立列
- 五、散華頭參進
- 六、磬 二音
- 七、三奉請 毎句散華
- 八、散華頭復座
- 九、結衆復座
- 十、磬 一音

- 一、表白 一音
- 二、画 讃
- 三、揚経題
- 四、経 釈
- 一五、論 義
- 一六、精 判
- 一七、仰 磬
- 一八、回向句
- 一九、磬 二音
- 二〇、講読師降高座
- 二一、証誠・題者・結衆退出
- 二三、諸僧退出



宗祖降誕会（五月二十日速夜法要）では、「論義」を用いた作法をお勤めいたします。「論義」とは、経論の内容について問答形式で議論するもので、この法要の形式は、奈良の興福寺や比叡山の延暦寺などで、千数百年前から盛んに行われてきた伝統があります。本願寺で論義を用いて法要を勤められたのは、第十四代宗主寂如上人（二六五―一七二五）だと伝えられてきました。現在お勤めされる論義作法は、この「無量寿会作法」だけが伝えられています。この作法は、私たちになじみの深い「浄土三部経」からテーマを選び、学問的な質疑応答を行う、独特な形式の法要です。「それ真実の教を顕さば、すなはち『大無量寿経』これなり」と明らかに示してくださった、親鸞聖人のご誕生をお祝いするにふさわしい法要です。

（法要次第の語句説明）

（表 白） 法要の主要なる意義を尊前に述べるもので、本法要においては宗祖親鸞聖人のご誕生について述べます。

（画 讃） 第十四代宗主寂如上人が宗祖親鸞聖人のご遺徳を讃え、記された讃文を唱えます。

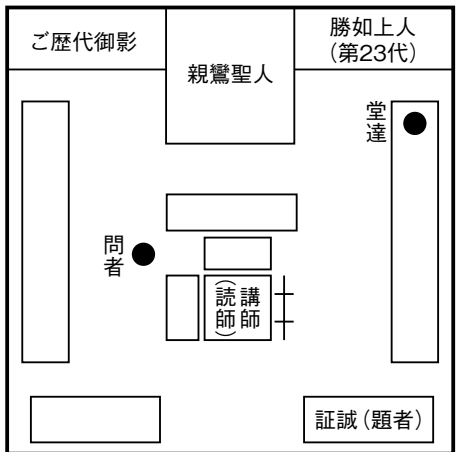
（揚経題） 読師（現在講師が兼ねる）が「仏説無量寿経」と経題を唱えます。

（経 釈） 講師が無量寿経を「大意とは……、題目とは……、文に入って判 釈せば……、上巻とは……、下巻とは……、」と釈します。

（論 義） 論題について問答することで、「業義」と「副義」とがあります。現在、業義は「出世本懐」を、副義は「行信一念、十劫久遠、特留此経、一心帰命」の内から行われます。問者は「業義・副義」の順に発問し、講師は「副義・業義」の順に答え、これを二回行います。

（精 判） 証誠が題者を兼ねる場合は、通常行われません。

（仰 磬） 論義が終わると題者（現在証誠が兼ねる）が、堂達に打磬を命じます。



- 証誠（しょうじょう） 論義が正しく行われていることを確認する役で、ご門主様が勤められます。
- 題者（だいしゃ） お経の中からテーマを選び、論義が終わると精判を行う役で、証誠が兼ねます。
- 講師（こうじ） テーマについて講演し、問者の問に対して答えます。
- 読師（どくし） 経題を読む役で、講師が兼ねることがあります。
- 問者（もんじゃ） 講師に問を発する役で、結衆の中から選ばれます。
- 堂達（どうたつ） 論義の終わりの磬を打つ役で、結衆より選ばれます。

法要・行事日程

21(火)

6時00分	晨朝	両堂
9時30分～15時30分	帰敬式(午前の部) 茶席 ※茶席券が必要です P.41	御影堂
10時00分	日中法要(約40分) 新制御本典作法第一種 御堂布教(約10分) 大竹 輝道師(三重県)	御影堂
引き続き		
11時00分～11時30分	リレー布教 P.40	お茶所
11時30分	宗祖降誕奉讃法要(約50分) (音楽法要)	御影堂
12時30分～13時00分	雅楽献納会 P.15	御影堂
12時30分～16時00分	祝賀能 ※観能券が必要です P.42	南能舞台
13時30分	帰敬式(午後の部)	御影堂
14時00分	常例布教(30分2席) 大竹 輝道師(三重県)	総会所
15時00分～15時30分	リレー布教 P.40	お茶所

第56回 雅楽献納会

(約30分)

この雅楽献納会は、一九六一(昭和三十六)年の宗祖親鸞聖人七百回大遠忌法要を機縁として開催されました。平素より各雅楽団体等において研鑽を積まれた方々が親鸞聖人の御前に参集し、雅楽を奏して聖人のご誕生をお祝いします。

- 楽 目
- ◆ 沓越調「迦陵頻急」胡飲酒破
 - ◆ 仏教讃歌「恩徳讃」

と き ● 5月21日(火) 12:30～
と ころ ● 御影堂



式務部

新制御本典作法 第一種

「御本典」とは親鸞聖人の主著であり私たち浄土真宗の根本聖典でもある『顕浄土真実教行証文類(教行信証)』のことを指します。真宗教団連合(真宗十派で組織)では元仁元年(一二三四年)四月十五日にこの『教行信証』の草稿本が完成したとし、この日を「立教開宗記念日」と定めています。

昭和四十八年に修行された「親鸞聖人御誕生八〇〇年・立教開宗七五〇年慶讃法要」では『教行信証』からの御文で「御本典作法」が音楽法要として厳修されました。当時の仏教界では音楽法要は斬新的で新たな可能性を示しました。

令和五年三月よりご修行された「親鸞聖人御誕生八五〇年・立教開宗八〇〇年慶讃法要」に際しおなじく『教行信証』に依り、新たに伝統的な唱え方を一部復活させ五〇年前の「御本典作法」も法要の前後に取り入れて、次の五〇年に向けて伝統と斬新さを発現できるよう「新制御本典作法」が制定されました。

特に「正信偈」の部分は、和讃譜が新たに採譜され、これまでの唱え方に、もう一つ加えられることによって選択肢が増え、各寺院における様々な法要に対応できるものとなっています。



頌讚（教卷）

出律曲
音曲

羽

平調

每句取次第

商
宮
羽



宮 ス 時 ^じ	羽 ス 十 ^{じつ}	羽 ス 速 ^{そく}
宮 ス 機 ^き	羽 ス 方 ^{ほう}	羽 ス 疾 ^{しつ}
宮 ス 純 ^{じゆん}	宮 ス 稱 ^{しょう}	宮 ス 圓 ^{えん}
羽 ス 熟 ^{じゆく}	宮 ス 讚 ^{さん} 次第取	宮 ス 融 ^{にゆう} 次第取
宮 ス 之 ^し 次第取	宮 ス 之 ^し	宮 ス 之 ^し
商 ス 眞 ^{しん}	宮 ス 誠 ^{じよう}	宮 ス 金 ^{こん}
宮 ス 教 ^{けう} (ワル)	宮 ス 言 ^{ごん}	宮 ス 言 ^{ごん}

羽 ス 一 ^{いち}	羽 ス 奇 ^き	羽 ス 如 ^{によ}
羽 ス 乗 ^{じよう}	羽 ス 特 ^{どく}	羽 ス 來 ^{らい}
宮 ス 究 ^く	宮 ス 最 ^{さい}	宮 ス 興 ^{こう}
宮 ス 竟 ^{きよう} 次第取	宮 ス 勝 ^{しょう} 次第取	宮 ス 世 ^せ 次第取
宮 ス 之 ^し	宮 ス 之 ^し	宮 ス 之 ^し
宮 ス 極 ^{ごく}	宮 ス 妙 ^{めう} (ワル)	宮 ス 正 ^{しょう}
宮 ス 說 ^{せつ}	宮 ス 典 ^{でん}	宮 ス 說 ^{せつ}

正信念佛偈（行卷）

和讃譜

出音 宮 平調



歸命无量壽如來
宮一 宮一 宮一 商一 宮一

南无不可思議光
同 商一 角一 商一 宮一 宮一 宮一 羽一

法藏菩薩曰位時
宮一 宮一 羽一 宮一 商一 商一 宮一

在世自在王佛所
宮一 宮一 宮一 羽一 徴一 徴一 徴一

觀見諸佛淨土曰
宮一 宮一 羽一 宮一 商一 商一 宮一

國土人天之善惡
商一 角一 商一 宮一 宮一 宮一 羽一

建立无上殊勝願
宮一 宮一 羽一 宮一 商一 商一 宮一

超發希有大弘誓
宮一 宮一 宮一 羽一 徴一 徴一 徴一

五劫思惟之攝受
宮一 宮一 羽一 宮一 商一 商一 宮一

重誓名聲聞十方
商一 角一 商一 宮一 宮一 宮一 羽一

普放无量无边光
宮一 宮一 羽一 宮一 商一 商一 宮一

无碍无对光炎王
宮一 宮一 宮一 羽一 徴一 徴一 徴一

清淨歡喜智慧光
宮一 宮一 羽一 宮一 商一 商一 宮一

不斷難思无称光
商一 角一 商一 宮一 宮一 宮一 羽一

超日月光照塵刹
宮一 宮一 羽一 宮一 商一 商一 宮一

一切群生蒙光照
宮一 宮一 宮一 羽一 徴一 徴一 徴一



本願名號正定業
宮一 羽一 宮一 商一 商一 宮一

至心信樂願爲回
商角一 商一 宮一 宮一 宮一 羽一

成等覺證大涅槃
宮一 羽一 宮一 商一 商一 宮一

必至滅度願成就
宮一 宮一 羽一 微一 微一 微一

如來所以興出世
宮一 羽一 宮一 商一 商一 宮一

唯說彌陀本願海
商角一 商一 宮一 宮一 宮一 羽一

五濁惡時群生海
宮一 羽一 宮一 商一 商一 宮一

應信如來如實言
宮一 宮一 羽一 微一 微一 微一

能發一念喜愛心
宮一 羽一 宮一 商一 商一 宮一

不斷煩惱得涅槃
商角一 商一 宮一 宮一 宮一 羽一

凡聖逆謗齊迴入
宮一 羽一 宮一 商一 商一 宮一

如衆水入海一味
宮一 宮一 羽一 微一 微一 微一

攝取心光常照護
宮一 羽一 宮一 商一 商一 宮一

已能雖破无明闇
商角一 商一 宮一 宮一 宮一 羽一

貪愛瞋憎之雲霧
宮一 羽一 宮一 商一 商一 宮一

常覆眞實信心天
宮一 宮一 羽一 微一 微一 微一





譬ひ如によ日につ光こう覆ふ雲うん霧む

雲うん霧む之し下げ明みよう无む閤あん

獲ぎやく信しん見けん敬きよう大だい慶きよう喜き

即そく横おう超ちよう截ぜつ五ご惡あく趣しゆ

一いつ切さい善ぜん惡まく凡ぼん夫ぶ人にん

聞もん信しん如によ來らい弘ぐ誓ぜい願がん

佛ぶつ言ごん廣こう大だい勝しょう解げ者しゃ

是ぜ人にん名みよう分ふん陀だ利り華け

彌み陀だ佛ぶつ本ほん願がん念ねん佛ぶつ

邪じゃ見けん憍きよう慢まん惡なく衆しゆ生じよう

信しん樂ぎよう受じゆ持じん甚に以なん難なん

難なん中ちゆう之し難なん无む過か斯し

印いん度ど西さい天てん之し論ろん家げ

中ちゆう夏か日じち域いき之し高こう僧そう

顯けん大だい聖しやう興こう世せ正しやう意い

明みよう如によ來らい本ほん誓ぜい應おう機き





釋迦如來楞伽山
一宮 一羽 一宮 一商 一宮

龍樹大士出於世
一宮 一羽 一宮 一商 一宮

宣說大乘无上法
一宮 一羽 一宮 一商 一宮

顯示難行陸路苦
一宮 一羽 一宮 一商 一宮

爲衆告命南天竺
一宮 一商 一宮 一宮 一羽

悉能摧破有无見
一宮 一宮 一羽 一微 一微

證歡喜地生安樂
一宮 一商 一宮 一宮 一羽

信樂易行水道樂
一宮 一宮 一羽 一微 一微

憶念彌陀佛本願
一宮 一羽 一宮 一商 一宮

自然即時入必定
一宮 一商 一宮 一宮 一羽

唯能常稱如來號
一宮 一羽 一宮 一商 一宮

應報大悲弘誓恩
一宮 一宮 一羽 一微 一微

天親菩薩造論說
一宮 一羽 一宮 一商 一宮

歸命无碍光如來
一宮 一商 一宮 一宮 一羽

依修多羅顯眞實
一宮 一羽 一宮 一商 一宮

光闡横超大誓願
一宮 一宮 一羽 一微 一微





廣こう由ゆ本ほん願がん力りき迴え向こう
一宮 一羽 一宮 一商 一宮

爲い度ど群ぐん生じょう彰しょう一いつ心しん
一商 一宮 一宮 一宮 一羽

歸き入にゅう功く德どく大だい寶ほう海かい
一宮 一羽 一宮 一商 一宮

必ひつ獲ぎやく入にゅう大だい會え衆しゆ數しゆ
一宮 一宮 一羽 一微 一微

得とく至し蓮れん華げ藏ぞう世せ界かい
一宮 一羽 一宮 一商 一宮

卽そく證しょう眞しん如にょ法ほつ性しょう身じん
一商 一宮 一宮 一宮 一羽

遊ゆう煩ぼん惱のう林りん現げん神じん通ずう
一宮 一羽 一宮 一商 一宮

入にゅう生しょう死じ菌おん示じ應おう化げ
一宮 一宮 一羽 一微 一微

本ほん師し曇どん鸞らん梁りやう天てん子し
一宮 一羽 一宮 一商 一宮

常じやう向こう鸞らん處しよ菩ぼ薩さつ禮らい
一商 一宮 一宮 一宮 一羽

三さん藏ぞう流る支し授じゆ淨じやう教きやう
一宮 一羽 一宮 一商 一宮

焚ぼん燒じやう仙せん經ぎやう歸き樂らく邦ほう
一宮 一宮 一羽 一微 一微

天てん親じん菩ぼ薩さつ論ろん註ちゆう解げ
一宮 一羽 一宮 一商 一宮

報ほう土ど回いん果が顯けん誓せい願がん
一商 一宮 一宮 一宮 一羽

往おう還げん迴ね向こう由ゆ他た力りき
一宮 一羽 一宮 一商 一宮

正しやう定じやう之し回いん唯ゆい信しん心じん
一宮 一宮 一羽 一微 一微





惑わく染ぜん凡ぼん夫ぶ信しん心じん發ぼつ
一宮 一宮 一羽 一宮 一商 一商 一宮

必ひつ至し无む量りよう光こう明みよう土ど
一宮 一宮 一羽 一宮 一商 一商 一宮

道どう綽しゃつ決けつ聖しょう道どう難なん證しょう
一宮 一宮 一羽 一宮 一商 一商 一宮

萬まん善ぜん自じ力りき貶へん勤ごん修しゆ
一宮 一宮 一羽 一宮 一商 一商 一宮

證しょう知ち生しょう死じ即そく涅ね槃はん
一商 一商 一羽 一宮 一宮 一羽

諸しよ有う衆しゆ生じよう皆かい普ふ化け
一宮 一宮 一羽 一羽 一微 一微

唯ゆい明みよう淨じよう土ど可か通つう入にゆう
一商 一商 一羽 一宮 一宮 一羽

圓えん滿まん德とく號ごう勸かん專せん稱しょう
一宮 一宮 一羽 一羽 一微 一微

三さん不ぶ三さん信しん誨け慇おん懃ごん
一宮 一宮 一羽 一宮 一商 一商 一宮

像ぞう末まつ法ほう滅めつ同どう悲ひ引いん
一商 一商 一羽 一宮 一宮 一羽

一いつ生しょう造ぞう惡あく值ち弘ぐ擔ぜい
一宮 一宮 一羽 一宮 一商 一商 一宮

至し安あん養によう界がい證しょう妙みよう果か
一宮 一宮 一羽 一羽 一微 一微

角 商 商 宮 微

善ぜん導どう獨どく明みよう佛ぶつ正しょう意い
一宮 一宮 一羽 一宮 一商 一商 一宮

矜こう哀あい定じよう散さん與よ逆ぎやく惡あく
一宮 一宮 一羽 一宮 一商 一商 一宮

光こう明みよう名な號ごう顯けん回いん緣ねん
一商 一商 一羽 一宮 一商 一宮 一羽

開かい入にう本ほん願がん大だい智ち海かい
一宮 一宮 一羽 一宮 一商 一商 一宮



光明名號顯回緣
一商 一商 一羽 一宮 一商 一宮 一羽

開入本願大智海
一宮 一宮 一羽 一宮 一商 一商 一宮



角 商 一 源 げん 宮 一 信 しん 角 商 一 與 よ 宮 一 行 ぎよう
 角 商 一 專 せん 宮 一 雜 ぞう 角 商 一 章 かい 宮 一 提 だい 角 商 一 正 しょう
 角 商 一 執 しゅう 宮 一 心 しん 角 商 一 判 はん 宮 一 代 だい 角 商 一 獲 かく 宮 一 等 とう
 角 商 一 判 はん 宮 一 浅 せん 角 商 一 三 さん 角 商 一 忍 にん 角 商 一 金 こん
 角 商 一 深 じん 角 商 一 教 けう 角 商 一 剛 こう 角 商 一 心 しん

角 商 一 報 ほう 宮 一 偏 へん 角 商 一 即 すぐ 宮 一 慶 ぎよう
 角 商 一 化 け 宮 一 歸 き 角 商 一 證 しょう 宮 一 喜 き
 角 商 一 二 に 宮 一 安 あん 角 商 一 法 ぽう 宮 一 一 いち
 角 商 一 土 ど 宮 一 養 よう 角 商 一 性 しょう 宮 一 念 ねん
 角 商 一 正 しょう 角 商 一 勸 かん 角 商 一 之 し 宮 一 相 そう
 角 商 一 辨 べん 角 商 一 一 いっ 角 商 一 常 じよう 宮 一 應 おう
 角 商 一 立 りう 角 商 一 切 さい 角 商 一 樂 らく 角 商 一 後 ご



角 商 一 煩 ぼん 宮 一 惱 のう 角 商 一 鄣 しょう 角 商 一 眼 げん 角 商 一 雖 すい 角 商 一 不 ふ 角 商 一 見 けん
 角 商 一 極 ごく 角 商 一 重 じゅう 角 商 一 惡 あく 角 商 一 人 じん 角 商 一 唯 ゆい 角 商 一 稱 しょう 角 商 一 佛 ぶつ
 角 商 一 本 ほん 角 商 一 師 し 角 商 一 源 げん 角 商 一 空 く 角 商 一 明 みよう 角 商 一 佛 ぶつ 角 商 一 教 けう
 角 商 一 眞 しん 角 商 一 宗 しゅう 角 商 一 證 しょう 角 商 一 興 こう 角 商 一 片 ぺん 角 商 一 州 しゅう
 角 商 一 眞 しん 角 商 一 宗 しゅう 角 商 一 證 しょう 角 商 一 興 こう 角 商 一 片 ぺん 角 商 一 州 しゅう

角 商 一 選 せん 宮 一 憐 れん 角 商 一 大 だい 角 商 一 我 が 角 商 一 亦 やく 角 商 一 在 ざい 角 商 一 彼 へ 角 商 一 攝 せつ 角 商 一 取 しゅ 角 商 一 中 ちゅう
 角 商 一 擇 たく 宮 一 愍 みる 角 商 一 悲 ひ 角 商 一 我 が 角 商 一 亦 やく 角 商 一 在 ざい 角 商 一 彼 へ 角 商 一 攝 せつ 角 商 一 取 しゅ 角 商 一 中 ちゅう
 角 商 一 本 ほん 角 商 一 善 ぜん 角 商 一 无 む 角 商 一 倦 けん 角 商 一 常 じよう 角 商 一 照 せう 角 商 一 我 が 角 商 一 亦 やく 角 商 一 在 ざい 角 商 一 彼 へ 角 商 一 攝 せつ 角 商 一 取 しゅ 角 商 一 中 ちゅう
 角 商 一 願 がん 角 商 一 惡 悪 角 商 一 凡 ぼん 角 商 一 夫 ぶ 角 商 一 人 じん 角 商 一 我 が 角 商 一 亦 やく 角 商 一 在 ざい 角 商 一 彼 へ 角 商 一 攝 せつ 角 商 一 取 しゅ 角 商 一 中 ちゅう
 角 商 一 弘 ぐう 角 商 一 惡 悪 角 商 一 凡 ぼん 角 商 一 夫 ぶ 角 商 一 人 じん 角 商 一 我 が 角 商 一 亦 やく 角 商 一 在 ざい 角 商 一 彼 へ 角 商 一 攝 せつ 角 商 一 取 しゅ 角 商 一 中 ちゅう



還來生死輪轉家
速入寂靜無爲樂
弘經大士宗師等
道俗時衆共同心

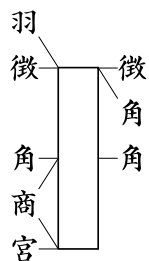
決以疑情爲所止
必以信心爲能入
拯濟無邊極濁惡
唯可信斯高僧說

大信讚 (信卷)

律曲 出音 宮

壹越調

定曲



大信心者「則是」
長生不死之神方
選擇迴向之直心

忻淨厭穢之妙術
利他深廣之信樂





序曲 南 无 阿 彌 陀 佛
 南 无 阿 彌 陀 佛
 南 无 阿 彌 陀 佛
 南 无 阿 彌 陀 佛
 定曲 南 无 阿 彌 陀 佛

同 南 无 阿 彌 陀 佛
 南 无 阿 彌 陀 佛
 南 无 阿 彌 陀 佛
 南 无 阿 彌 陀 佛

念

佛

呂曲
出音 宮

平調
俱曲



極 速 圓 融 之 白 道
 世 間 難 信 之 捷 徑
 心 光 攝 護 之 一 心
 金 剛 不 壞 之 眞 心

眞 如 一 實 之 信 海
 證 大 涅槃 之 眞 回
 希 有 最 勝 之 大 信
 易 往 无 人 之 淨 信

宗祖降誕奉讃法要

宗祖降誕奉讃法要は、仏教音楽研究委員会（現：浄土真宗本願寺派総合研究所）において検討が重ねられ、1963（昭和38）年にご制定となりました。

この法要は、讃歌衆の合唱やオルガンの響きが特徴となっており、声明や雅楽による伝統的な法要とはまた別の、独特な雰囲気（みどろ）に御堂（みどう）が包まれます。

本年は約100名の高校生による讃歌衆を結成しました。

なお、全国の宗門関係学校（龍谷総合学園）の学生・生徒や中央仏教学院の学院生、合わせて約1,200名がこの法要に参拝し、ともにお勤めします。

社会部〈宗教教育担当〉

龍谷総合学園加盟高等学校

旭川龍谷高等学校
小樽双葉高等学校
武蔵野大学高等学校
龍谷富山高等学校
金沢龍谷高等学校
岐阜聖徳学園高等学校
京都女子高等学校
神戸龍谷高等学校
神戸国際高等学校
崇徳高等学校
筑紫女学園高等学校
龍谷高等学校
パシフィック・ブディスト・アカデミー高等学校
〈PACIFIC BUDDHIST ACADEMY（ハワイ）〉

札幌龍谷学園高等学校
武蔵野大学附属千代田高等学院
国府台女子学院高等部
高岡龍谷高等学校
北陸高等学校
龍谷大学付属平安高等学校
相愛高等学校
兵庫大学附属須磨ノ浦高等学校
岡山龍谷高等学校
敬愛高等学校
東九州龍谷高等学校
敬徳高等学校

回向句（證卷）

中音曲

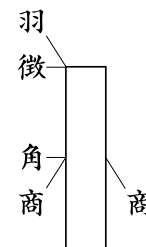
徴

壹越調

徴 スク 仰 げう
徴 スク 可 か
羽 スク 奉 ぶ
キル 徴 ニ 持 じ
商 スク 特 たく
商 スク 可 か
商 スク 頂 ちよう
ウ スク 戴 だい
イ 角 スク 矣 い
商 落音

徴 スク 還 げん
ウ 徴 スク 相 そう
徴 スク 利 り
アタリイロ 角 本下 徴 ニ 益 やく
商 けん 顯 けん
角 スク 利 り
た 他 商 角 キ
ウ 角 スク 正 しょう
アタリイロ 角 本下 徴 ニ 意 い
商

ウ 徴 スク 證 しょう
イ 徴 スク 大 だい
羽 スク 涅槃 ねはん
シ 徴 スク 槃 はん
同 かん 願 がん
角 スク 力 りき
え 廻 商 角
ウ 角 スク 向 こう
アタリ上



宗 | 祖 | 降 | 誕 | 会 リ | レ | ー | 布 | 教

と き ● 5月20日(月)
9:30~10:00
15:30~16:00
5月21日(火)
11:00~11:30
15:00~15:30

ところ ● お茶所 (総合案内所)

お茶所にて布教使による
法話(ほとけさまのおはな
し)を1席15分程度のリレー
形式にて実施いたします。ど
なた様でもお気軽にお立ち寄
りください。(春・秋のお彼
岸中も実施しております)



☞ 参拝教化部／僧侶養成部〈布教使担当〉

2024(令和6)年 本願寺の法要行事日程

誕生会(日野誕生院宗祖降誕会)	5月19日(日)
宗祖降誕会	5月20日(月)~21日(火)
広如忌(角坊)	6月1日(土)~2日(日)
大谷本廟納骨・永代経総追悼法要	6月5日(水)~8日(土)
朝の法座(大谷本廟)	7月20日(土)~22日(月)
盂蘭盆会	8月14日(水)~15日(木)
戦没者追悼法要	8月15日(木)
千鳥ヶ淵全戦没者追悼法要 (東京・国立千鳥ヶ淵戦没者墓苑)	9月18日(水)
秋季彼岸会	9月19日(木)~25日(水)
龍谷会(大谷本廟報恩講法要)	10月15日(火)~16日(水)
〈秋の法要〉 全国門徒総追悼法要	11月22日(金)~23日(土)
御煤払	12月20日(金)
除夜会	12月31日(火)
宗祖月忌法要 (16日はShinran's Day)	毎月15日、16日 ※1月は除く



祝賀能

と き ● 5月21日(火)
開場12:00
開演12:30

ところ ● 南能舞台

※「観能券」が必要です。
P.41をご参照ください。

本年の番組

一、能 半 薙
一、狂言 仏 師
一、能 天 鼓

終了予定16:00頃

本願寺と能の関係は古く、第8代宗主蓮如上人の頃に始まり、宗祖降誕会での祝賀能は明治20年代半ば頃から恒例となりました。演能は京都観世会が奉仕され、観世流の関西所司代格である片山家を中心となり演じられています。

また、会場である南能舞台は、日本最大の屋外能舞台です。

歴史ある建造物と能がかもしだす優美な空間をぜひともご堪能ください。



茶席

と き ● 5月20日(月)
12:30~16:00
5月21日(火)
9:30~15:30

ところ ● 飛雲閣1層

※「茶席券」が必要です。

白洲受付にて
参拝懇志(5千円以上)
をご進納の方に
「茶席券・観能券」を各
1枚お渡しいたします。
また、21日9時より
祝賀能の入場整理券を
お渡しいたします。

戴内流による抹茶のご接待がなされます。

給仕をしていただく方々は、本願寺の用達業の方々を中心に組織された「開明社」の皆様で、戴内家・開明社ともに、本願寺の大切な行事の折にご奉仕いただいております。

どうぞ心安らぐひとときをお過ごしください。



すべてのご家庭に阿弥陀様を

龍虎殿(参拝教化部)受付にてお迎えいただくことができます

〈左側〉蓮如上人(蓮師)



〈見本〉

〈中央〉御本尊(阿弥陀如来)



〈見本〉

〈右側〉親鸞聖人(宗祖・祖師)



〈見本〉

※上記写真の他に六字尊号(南無阿弥陀仏)、九字尊号(南無不可思議光如来)、十字尊号(帰命尽十方無礙光如来)がございます。
※大きさと表装の違いにより異加金額が変わりますので、詳しくは参拝教化部(免物係)までお問い合わせください。

いちよう・きく

いろいろな生活環境においても、心のよりどころとしてのご本尊を安置していただける小型の「いちよう」と「きく」があります。それぞれにご絵像と六字名号があります。



いちよう
(縦24cm×横19cm×奥行9cm) 異加金 30,000円



きく
(縦17.2cm×横10.3cm×奥行2.9cm) 異加金 20,000円

携行本尊(絵像)

携行本尊とは、「独りじゃないよ、いつも一緒だよ」と、よびかけてくださる阿弥陀さまをいつでもどんな時でも感じられるよう、持ち歩くことができる名刺サイズの御本尊です。西本願寺(龍虎殿)で直接お迎えいただけるほか、ホームページからのお申込みも可能です。



PR動画及び
申込みフォーム
はこちら



(縦90mm×横55mm×厚み2mm
漆ブラック調バイオプラスチック)
異加金 10,000円

参拝教化部(免物係)

「院号」を いただくには



院号・法名は生前に
いただくことが
できるんだね!

院号とあわせて
式章もいただい
けるんだね!

院号は、宗門へ貢献をされた方や、20万円以上の永代経懺志を納めていただいた方へお渡ししているものです。
おくられる院号は「〇〇院」の漢字3文字で浄書(墨書き)したものに本願寺印が押印されています。院号はご自身の希望の文字を入れて、内願することになります。帰敬式を受式されている方には、院号のあとに法名「釋〇〇」が併記されます。

院号って何?



永代読経修行之証

永代経申し込み後、初めて法要にお参りいただいた際に、「永代読経修行之証」という証書をお渡しします。この証書をお持ちいただいた方には、これ以降本願寺「国宝」阿弥陀堂にて、原則1日2回修行される総永代経法要にいつでもお参りいただき焼香することが可能です。



「院号」がいただける基準

- 寺院の門徒総代を通算20年(5期)以上経歴された方や、寺院の責任役員を通算12年(3期)以上経歴されるなどその功績が認められた方
- 宗門および本山に多額の永代経懺志を進納された方(懺志20万円以上の永代経扱いとして交付)

参拝教化部(永代経係)

※大谷本廟でもお申し込みいただけます。
※お世話になっているお寺のある方は、そちらにご相談ください。

ほとけさまのお話

お西さんの法話 毎日(11:00)/御影堂 15分1席 ※配信なし

YouTubeチャンネル「お西さんの法要行事」



晨朝〈朝のお勤め〉 毎朝(6:00)/阿弥陀堂・御影堂 ▶LIVE

お西さんの土曜法話 土曜日(17:00)/総会所 40分1席 ▶LIVE

YouTubeチャンネル「お西さんの常例布教」



昼座 毎日(14:00)/総会所 30分2席 ▶LIVE

※参加無料。また、各法座は状況により中止又は時間・会場等変更する場合がございます。

YouTubeによるお聴聞ができます！

毎日の晨朝・昼座とお西さんの土曜法話をYouTubeにて▶LIVE配信しています。また、過去の法話(アーカイブ※)も公開中です。上記チャンネルから、いつでもどこでもお聴聞していただけます。

※〈アーカイブ配信〉は期間限定公開(諸事情により公開されない場合もございます)。



「お西のお坊さん」による境内案内 お西さんを知ろう！

1日4回 所要時間…約30分

集合場所:お茶所(総合案内所)



1回目 10:00～ 2回目 11:30～

3回目 13:45～ 4回目 15:30～

本願寺の僧侶「お西のお坊さん」が、両堂や境内各所を法話を交え、ご案内いたします。どなたでも何度でもご参加いただけます。参加希望の方は、上記開催時間までにお茶所(総合案内所)にお越しください。

※本法要期間中も開催いたします。

何がもらえるかは
お楽しみ！

ご参加いただいた方には…

オニシ
024Card 全24種

1枚をプレゼント！

本願寺の見どころを
紹介する
オリジナルカードです。



お西さんの 帰敬式を知ろう！

帰敬式は「おかみそり」とも呼ばれ、阿弥陀如来・親鸞聖人の御前で浄土真宗の門徒としての自覚をあらたにし、お念仏申す日暮らしを送ることを誓う大切な儀式です。仏教をひらかれたお釈迦さまの「釋」の一字と漢字二文字※からなる「法名」が授けられます。「法名」とは、み教え(法)を依りどころとしてお浄土への道を歩ませていただく仏弟子としての「名のり」です。

※漢字二文字は、經典(浄土三部經)や親鸞聖人の著書の中より選ばれています

日ごろ、多くおたずねのある
「帰敬式」をご案内するよ。



帰敬式Q&A

Q 「法名」と「戒名」は違うのですか？

いずれも仏教徒としての名前を表す言葉ですが、浄土真宗では「法名」、他宗では「戒名」・「法号」ともいいます。厳格な規律(戒律)を守って修行する人びとにつく名前が「戒名」なのに対し、浄土真宗では、戒律の一つも守ることのできない私たちを、必ず浄土へ迎えるという阿弥陀さまのはたらきを「法」と呼び、その法の中に生かされている私たちがいただく名前を「法名」といいます。

Q なぜ、法名は「釋〇〇」だけなのですか？

浄土真宗のみ教えは、みな等しくともに浄土への道を歩ませていただくという教えですから、「釋〇〇」の法名以外に「信士・信女・居士・大姉」等の位号などは使いません。

受式時間 ※1月1日、16日の午前(朝)と1月8日、12月20日の終日は行われません

1日2回

午前(朝)の部:6時からの晨朝終了後に引き続き

午後(昼)の部:13時30分から ※連夜(14時)法要が行われる日は13時から

受式場所

御影堂

受式冥加金

成人:1万円 未成年:5千円

申込方法

龍虎殿(参拝教化部)受付にて『帰敬式受式願』【※PDF形式ダウンロード可】と受式冥加金を添えてお申込みください。事前に記入の上、封書またはファックスでお申込みいただくと受付時間が短縮されます。

※【お西さん(西本願寺)ホームページ】⇒【各種お申込み】⇒【帰敬式】からA4用紙にプリントしてご利用ください。

参拝教化部(帰敬式係)

浄土真宗本願寺派 たすけあい運動募金 「令和6年能登半島地震 災害義援金」 募集について

本年1月1日発生の「令和6年能登半島地震」の被害は8教区に及び、最も被害の大きかった能登半島地域では多くの方が避難生活を余儀なくされており、寺院・門信徒ともに甚大な被害報告が寄せられています。宗派では、被災地の支援を目的に、1月5日より標記募金の募集を行っておりますので、ご協力をお願い申し上げます。

記

1.募金の名称

浄土真宗本願寺派 たすけあい運動募金
「令和6年能登半島地震 災害義援金」

2.受付口座番号

郵便振替 01000-4-69957

加入者名 たすけあい募金

銀行振込

銀行 ゆうちょ銀行

店名 一〇九(イチゼロキュウ)店

番号 当座 0069957

名義 たすけあい募金

※通信欄に「能登地震」とご記入ください。住所、連絡先、領収書名のご記入をお願いします。

※インターネットバンキングにて振込の方は、振込日・金額・送金人・住所・連絡先・領収書名等についてメールアドレス(saigai-taisaku@hongwanji.or.jp)にお知らせをお願いいたします。

お預かりした募金は災害義援金として、被災地へお送りさせていただきます。

3.受付期間

2024(令和6)年1月5日(金)から当分の間

4.問い合わせ先

浄土真宗本願寺派伝道本部 社会部<災害対策担当>

TEL: 075-371-5181(代)

mail: saigai-taisaku@hongwanji.or.jp

龍虎殿・
安穩殿・お茶所・
間法会館ロビー等に
募金箱を設置
しております。

※義援金のほか最新情報は、浄土真宗本願寺派
公式ウェブサイトでご確認いただけます。



ほねをくだきても謝すべし

師主知識の恩徳も

身を粉にしても報ずべし

如来大悲の恩徳は

恩徳讃



宗祖降誕会の期間のみ龍虎殿に設置しております。
ご参拝の記念にどうぞ

